

第3学年 社会科の実践

1 単元名 「店と買い物のひみつ調査隊」

2 単元目標

- 買い物調べやスーパーマーケットの見学を通して、より良い生活を求める消費者の工夫や努力をとらえ、それと関連付けながら、販売に携わる人々がさまざまな工夫や努力をしていることに気づく。
- 販売の仕事の工夫や努力、商品の仕入れを通じた他地域とのつながりをとらえ、販売の仕事が自分たちの生活を支えていることに気づくとともに、上手な買い物の仕方について考え、消費者としての意識を高めることができるようにする。

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
<ul style="list-style-type: none"> ・ スーパーマーケットや売店の販売者の工夫や努力に関心を持ち、意欲的に調べることを通して、自分たちもよりよい消費生活を営もうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 消費者、販売者のそれぞれに工夫があり、それらは互いに関わりあっていることに気づく。 ・ 自分たちは消費活動を通して、広く国内外の地域とも関わっていることに気づく 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 買い物調べをしてわかったことを表やグラフにまとめ、それらから傾向を読み取ることができる。 ・ 商店の販売の様子などについてわかったことを説明したりまとめたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 販売の仕事に携わっている人は、さまざまな工夫をしているとともに、それぞれの商店によさがあることがわかる。 ・ 販売の仕事は他地域とも結びついており、自分たちの消費生活はそれらに支えられていることがわかる。

3 ひびき合う子どもたちをめざすための指導の工夫

(1) 単元と指導

① 単元について

この単元は、学習指導要領の内容(2)を受け、販売者側の工夫と消費者の工夫に気づき、消費者としての意識を高めていくことができるよう、買い物調べや店の見学を中心に設定している。

(2) 地域の人々の生産や販売について、次のことを見学したり調査したりして調べ、それらの仕事に携わっている人々の工夫を考えるようにする。

ア 地域には、生産や販売に関する仕事があり、それらは自分たちの生活をささえていること

イ 地域の人々の生産や販売に見られる仕事の特色及び国内の他地域などのかかわり

子どもの実態にも書いたように、販売者としての工夫や消費者としての工夫に気づいていない児童がほとんどである。そこでこの単元では、「買い物調べ」から学習をスタートさせていく。普段意識していない「買い物調べ」をすることで、「なぜこの店に行くんだろう。」「なにか秘密はあるのだろうか。」という疑問が生まれる。その疑問を実際に地域にある商店に行って調べ活動をして解決していく中で、自分たちの生活に大きく関わる消費活動について考えていくことをねらいとしている。

現代社会の消費活動は、核家族化や夫婦共働き、車社会などが影響し多様化している。インターネットも普及し、通信販売やネット販売などを利用する家庭も多くなり、多様化してきている。また、この地域では商店街や個人商店・専門店、スーパーマーケットが混在してある。中には個人商店・専門店を利用している家庭もあるが、多くはスーパーマーケットを利用している。その理由として、スーパーマーケットは消費者のニーズに合わせ発展していることにある。品質の良さ、安さ、そして種類の豊富さ。店内を回ることによって、食生活におけるほとんどの品物がそろってしまう。また、最近では買い物をするともらえるポイントやタイムセールなども行っている店が多い。また、惣菜を販売したり魚をさばいて販売したりするなど、すぐに食べられるものも売っている。消費者のエコについての意識が高くなるとともに、エコバックを使用すると2ポイントプレゼントする店や、賞味期限が切れたものは肥料として使うためにほとんどごみが出ないようにしている店も増えた。他にも、駐車場を広くする、バリアフリーにするなどの施設設備も整ってきている。児童がこれらのことを知ることで、販売者側が消費者のニーズに合わせ、大変な努力をして工夫していることに気づいて欲しい。

また、上でも述べたように、この地域では個人商店・専門店も多く点在している。スーパーマーケット

だけに視点を絞り学習をすすめていく方法も考えられた。しかし、個人商店・専門店にもスーパーマーケットとは違ったよさがある。個人商店・専門店では、品質の良さや安全性だけではなく、スーパーマーケットには少ない、「お客様とのコミュニケーション」を大切にしている店が多い。専門で扱っているからこそわかる、料理の仕方、どの材料を使うといいか、おすすめのものなどの話をしながら買い物ができる。地域の人とのコミュニケーションが減ってきている児童にとって、人と人とのつながりを大切にしている個人商店・専門店のよさを知ることは、地域の人と関わることにもつながってくると考えられる。

さらに、児童の生活の中には、コンビニエンスストアも大きく位置を占めている。スーパーマーケットよりも値段は少し高価なものが多いが、24時間あいていて必要なときに買うことができることができる。また、コンビニエンスストアの物流のスピードは群を抜いている。スーパーマーケットや個人商店・専門店と同様に、コンビニエンスストアにも工夫が多くあることに気づいて欲しい。

このように、それぞれの店の工夫や努力、良さをすることで、消費者として店を選択していく力を身につけて欲しいと考える。

② 導入について

○ 単元の学習過程について

4月の「まちたんけん」の学習の中で、「なぜ店に人がたくさん来るか調べたい。」という疑問が出てきている。この単元では、この児童の素朴な疑問を導入にすることにした。児童が興味・関心を持ち、「知りたい」と思っているこの疑問をこの単元の始めの学習課題とすることで、切実さや知的好奇心が生まれると考えられる。導入の段階では、児童は消費者側から人が来る理由を考える。「どうして行くのか」を考えることで一番身近な家の人の買い物と結びついていく。しかし、普段はそんなに意識していなかったり、学校にいる間に買い物に行ってしまったりする場合も多いので、「わからない」という意見も出てくるであろう。そこから「買い物調べ」に結び付けて生きたい。児童は、「安いから」「家から近いから」などの理由からスーパーマーケットに多く行っていることはわかっているが、その理由は表面上理解しているだけであり、深くは知らないことが多い。1週間、家の人の買い物を調べることでどの店に行っているのか。どうして行くのかを調べることで、消費者側の工夫や、お店になにか工夫やひみつがあるかもしれないと、気がつくことができるであろう。そこで改めて、「店の良さや工夫を調べよう」という学習課題ができるようにしたい。

この単元では、児童の「知りたい」「このように調べて行きたい」という思いを中心にしながら、家族へのインタビューや、店へ見学に行き観察すること、インタビューすることをもとに学習を進めて行きたい。児童の思いや考えを大切にしながら、学習計画を児童と一緒に立てていくことで、ここでもさらに「切実さ」や「知的好奇心が生まれると考えられる。しかし、ただ行ったのでは自分の考えを持つことができない場合もある。そこで、必ず予想の時間をとり、どんな良さや工夫があるのか、どうしてなのかをしっかりと予想してから見学に行きたい。予想と比べて検証することや、初めて知ることなどの経験を通して、見学に行き調べることや、実際に自分の目で見ること、話を聞いて学習をすすめていくことの喜びを味わって欲しい。

○ ひびき合いについて

ひびき合い、関わり合うために、見学して学んだことを一度しっかりと見直す時間を設けることで、まずは自分の考えをしっかりと持てるようにしたい。見学に行ってきただけでは、話し合いが表面上で終わってしまうことがある。見学から帰って来て自らわかったことをまとめ思考した後に、グループでわかったことや考えたことを伝え合う時間をとり、予想したことや経験したことと「比べる」ことができるようにしたい。また、本学級の児童は自信がなく発言が少ないという実態もある。そこで、全体での話し合いの前にペアで伝え合う時間を設定することで、一人ひとりが発言し考えを伝え合う時間を確保したい。

本時では、グループごとに分かれて見学してきたことをもとに、それぞれの店の良さや工夫を比べ合いながら話し合っていく。はじめは「スーパーが安くてよい。」「すぐ買って食べられるコンビニがよい。」と思っていた児童が、それぞれに良さを出し合い比べあっていくことで他のお店の良さや工夫に気づき、「お肉屋さんで買い物をしてみたい。」「お魚屋さんにも行ってみたい。」というように、消費者としての視点が広がる様子をひびき合いとしたい。

4 単元指導計画

次	時	学 習 活 動	主な支援・留意点【評価】
1	① ④	○オリエンテーション ・なぜ人が店にたくさん来るかを考えて話し合い、家の人はどうなのを知ろうとする意欲を持つ。 ○買い物調べ ・買い物について調べ、行った店やその理由を記録する。 ・調べてわかったことを話し合い、グラフに表す。 ・結果からわかったことをまとめ、学習課題を設定する。	・買い物の仕方について関心を持ち、学習への意欲を高める。 ・買い物調べカードに必要なことを記入し、クラス全体の数を集計し表やグラフに表し、学習課題を設定できるようにする。 【関心・意欲・態度】【思考・判断】【技術・表現】
2	⑤ ⑱	○小田原百貨店（スーパーマーケット）の良さを調べに行こう ・ちらしから、スーパーマーケットのひみつを見つける。 ・学習課題に対する予想と、見学の計画を立てる。 ・見学に行き、良さや工夫についてまとめる ・もっと調べたいことをまとめる。 ○専門店やコンビに、他のスーパーの良さや工夫を調べよう ・それぞれの良さについて予想する。 ・見学に行く。 ・それぞれの店の良さについて、小田原百貨店と比べながら話し合う<本時>	・人がたくさん行っているスーパーの良さを予想するとともに、それを検証してくようになる。 ・設備・仕事の視点を持ち、工夫を調べてこられるようになる。 ・それぞれの店で見つけてきた良さと小田原百貨店や他の店の良さと比べるようになる。 ・消費者と販売者双方の視点を扱うことで、そのつながりに気づけるようになる。 【関心・意欲・態度】【思考・判断】【技術・表現】【知識・理解】
3	⑲ ⑳	○商品はどこから来ているか調べよう ・お店に行って、商品がどこから来ているのか調べる。 ・調べてわかったことを、地図にまとめる。	・商品が、いろいろなところから来ていることをから、国内外の地域とつながっていることを知ることができるようにする。 【関心・意欲・態度】【思考・判断】【知識・理解】
4	㉒ ㉓	○上手な買い物の仕方を考えよう ・買い物をするための工夫を調べる。	・買い物をするためにどのようなことに気をつければいいか、話し合いだけでなく、家の人にインタビューをして知ることができるようにする。 【関心・意欲・態度】【思考・判断】【知識・理解】
5	㉔ ㉕	○学習したことを生かして買い物をしてみよう ・カレーライスを作るための計画を立てる。 ・グループごとに分かれて買い物に行き、調理し、食べる。	・これまでの学習内容を生かして、自分が買い物をしたいところを選択できるようにする。 【関心・意欲・態度】【思考・判断】

6 本時

コンビニエンスストア、小売店、スーパーで調べたことについて比べるなかで、それぞれの良さに気がつくことができる。

学 習 活 動	指導上の支援・留意点★評価
<div data-bbox="100 387 1066 450" style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">それぞれの店の良さや工夫について話し合おう</div> <div data-bbox="100 488 555 864" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【肉屋】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小田百と違って、好きな量を買えるようになっているよ。 ・お客様と会話をするのを大切にしているんだって。 ・トレーにおいて、新鮮さを保っているんだって。 ・オリジナルのお肉も売って </div> <div data-bbox="100 936 555 1312" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【魚屋】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肉屋や八百屋と同じで、お客様と話をしていたよ。 ・新鮮な、生きている貝を売っていたよ。 ・目の前でさばいていたよ。 ・ひものも売っていたよ。 ・朝、市場から新鮮な魚を買ってくるんだって。 </div> <div data-bbox="100 1395 555 1771" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【八百屋】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国いろいろなところから取り寄せているんだって。 ・小田原の商品も入れるようにしているんだって。 ・お客様と話をしながら野菜を売っていたよ。 ・果物も売っていたよ。 ・たくさんの品物があった </div> <div data-bbox="592 629 1042 1005" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【コンビニエンスストア】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やっぱり、オリジナルの商品があったよ。 ・小田百と同じように、商品を冷やすところがあったよ。 ・仕事を交代して、24 時間やっているんだって。 ・すぐに食べられるようなものも売っているんだって。 </div> <div data-bbox="592 1171 1042 1547" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【SEIYU】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小田百と同じで商品がたくさんあったよ。 ・広告で安い品物をしらせていたよ。 ・商品の看板が小田百と同じようにあった。 ・専門の店より安いね。 ・たくさんの仕事があった </div> <div data-bbox="73 1865 839 1944" style="margin-top: 20px;"> <p>○ 話し合ったことをもとに、自分の考えをまとめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートにわかったことや思ったことを書く。 </div>	<p>指導上の支援・留意点★評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前時までのことを振り返り、学習意欲を高められるようにする。 ・ 良さや工夫を「比べる」ことを意識できるようにする。 ・ 始めに、隣の友だちと調べたことやわかったことを話すことで、一人ひとりが発言する場を確保する。 ・ 各自、ワークシートに調べたことをまとめておき、自分の考えを持てるようにしておく。 <p>★ それぞれのお店の良さや工夫について進んで話し合い、自分の考えを深めようとしている。【関・意】</p> <div data-bbox="1102 1933 1535 2094" style="margin-top: 20px;"> <p>○ 本時のまとめをする。</p> <p>★ それぞれの店の良さを考え、知ることができる。【知識・理解】</p> </div>

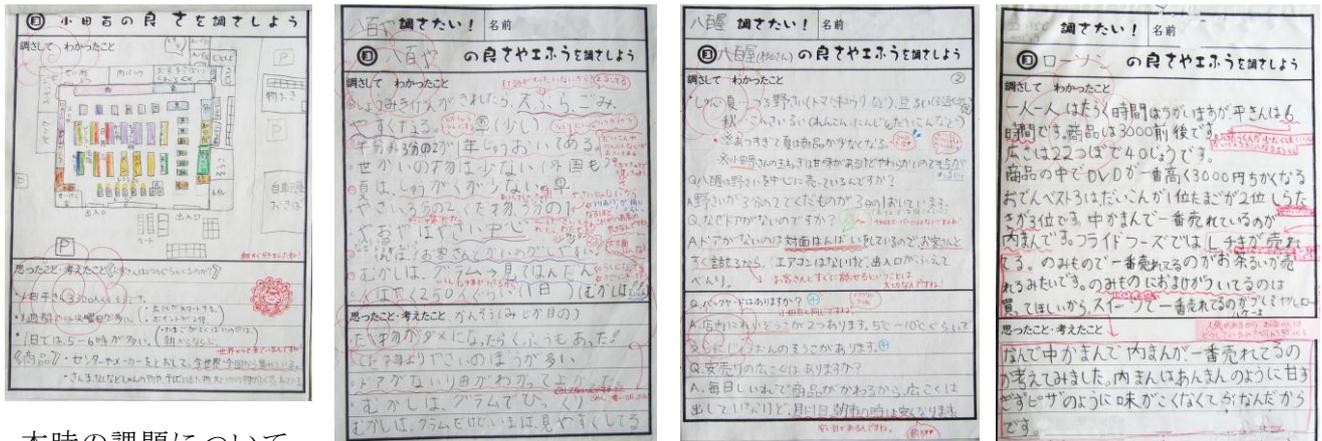
6 実践を終えて

① 単元を通して

この単元は、子どもの「知りたい。調べてみたい。」という思いを大切に学習を進めてきた。本来ならば、児童にどこのお店に行っているか聞き、家での店調べから入る学習である。しかし、子どもたちの思いを大切にするために、導入では4月の学区探検で子どもたちが興味を持った、「店になぜたくさん人が来るんだろう。」という疑問から入っている。その後、「家で一番行っている店はどこなのか」「なぜなのか」という疑問が出てきたので、実際に家でインタビューをして実際にはどうなのか知ることができた。調べた中で一番多かった店は、「スーパーマーケット」である。ほかの店と比べると、その差はとても大きい。そこで、なぜスーパーマーケットにたくさん人が行くのか、実際に行き調べるようになった。

スーパーマーケットについて調べた子どもたちは、自分たちの調べたかった「たくさん人が来る秘密」についてわかってしまったために、一度学習の流れが途切れそうになった。しかし、「もっと調べてみたいことはなんだろう。」と問いかけることで、「ほかの店と比べたい。」「店の品物がどこから来るのか知りたい。」という次の課題を作ることができた。また、一人の児童が、「人が来てなくても、八百屋や肉屋はつぶれてないよ。」という発言も大きく関わり、それぞれの店のよさをグループにわかれて調べるようになった。

子どもたちは、それぞれの店について調べ、話し合っていく中で、どのお店にもそれぞれ違ったよさがあることに気づくことができ、最後のカレーライス作りでも、スーパーマーケットや八百屋、肉屋など、どんなカレーライスを作りたいかという目的に応じて、店を選択して買い物をすることができた。中には、家でもこの学習を生かしながらカレーライスを作り、学習をまとめてきた児童もいる。保護者からも「自ら食材を買いに行くようになりました。」「八百屋のよさがわかり、よく行くようになりました。」という感想が来ている。最初はスーパーマーケットが一番いいと思っていた子どもたちも、一つひとつの店によさがあること、それを選択して買い物をしていくことに気づくことができた。



② 本時の課題について

本時では、「店のよさ・工夫を比べよう」という課題で授業を行った。子どもたち一人ひとりが自分の考えを持つために、予想をしてから全体でスーパーマーケットに見学に行った後、個人商店やコンビニなど、自分の調べてみたいお店にも何度か見学へ行った。また、見学に行きわかったことをまとめる時間も十分にとった。他にも、発言に自信が持てない児童が多いというクラスの実態を考慮して、感想や考えには必ずコメントを入れるようにしていった。その結果、一人ひとりが自分の考えを持つと共に、その考えに自信を持つことができた。それが、「伝えたい」「知りたい」という切実さにつながっていったと考えられる。

しかし、「比べる」という課題については難しさを感じた。スーパーマーケットに全体で見学行った後グループごとに調べ活動をしたため、共通の土台ができ、話し合いの視点ができたのは良かった。しかし、消費者の視点や販売者の視点が混在してしまっただけでもあり、つなげようとしていたが比べるまでにはいかなかった。

これらのことから、まずは「消費者」「販売者」「コミュニケーション」などの視点を与え話し合っていく必要があったと考えられる。または、意見をどの視点からの考えなのかを分けていくことで、もっと比べやすくなったのではないだろうか。また、児童からでは「少し高い。でもおいしい。」など比べているような発言を取り上げ、もっと「でも」という考えを引き出すこともできた。最後に、板書である。今回は出した発言を、店ごとに上から順に書いていってしまったが、どの意見をどうつなげていくのか、どうやったらもっと比べやすいかなどをよく考え板書していく必要があった。

③ 成果と課題

【ひびき合いについて】

○ 体験の時間の設定

この学習では、お店の工夫や良さについて学習を進めていく。しかし、児童一人ひとりの経験の差が大きく、実際に見学に行くことが大切になってくる。そこで、児童の家族がよく行くスーパーマーケットだけではなく、八百屋、肉屋などの小売店やコンビニエンスストアにも見学に行く時間を確保した。また、見学に行った後に自分の考えをまとめていく中で、「もっと知りたいことができた」「ここがわからなかった。」という子どもの思いを大切にし、場合によっては何度か見学に行く時間も設定した。そうすることで、調べているお店について詳しく情報を得たり、得た情報を知らせたいという切実な思いを持ったりすることができ、ひびき合いにつなげていくことができた。

○ 考えを持つための時間の設定

ひびき合うためには、自分の考えをしっかりと持つことが前提であると考えた。そこで、②でも書いたように、一人ひとりが見学で得た情報をしっかりとまとめる時間を確保した。まず、見学に行く前に予想を立てる。見学後には、一度一人ひとりが考える時間を設け、その後に更に一緒に見学に行ったグループでもまとめる時間を確保した。グループ内での話し合いでも、一人ひとりが考えを持つことができるようにしているため、意欲的に自分の考えやその理由を伝える姿が見られた。予想をしてから見学に行っていることもあり、それぞれが予想と比べながら意見を伝え合い、よさや工夫を考えることができた。

○ ペアで考えを伝え合う時間の設定

全体で話し合いをする際に、ペアで考えを伝え合う時間を必ず設定するようにした。本学級の児童は自信が持てずに発言が少ないという実態がある。場合によっては、考えを持つことはできても、全く発言をせずに1時間を過ごしてしまう児童もいる。そこで、ペアで発言する時間を設定することで、一人ひとりが考えを伝え合い、ひびき合えるようにした。そうすることで、全体の中で手を挙げられなくても、友だちに考えを伝えることができた。また、自信も持てるようになり、発言することができた児童もいた。他にも、「〇〇さんが、～と、とてもいいことを言っていました。」と、ペアの友だちの意見の良いところを考え発言する児童も増え、ひびき合いが見られるようになった。

○ 「比べる」を意識した課題設定

この3年生という学年は、「比べる」ということが学習の中でとても大切になってくる。「事象を比べる」「友だちの考えと比べる」など、比べることで多くのことを学習していく。そこで、この単元でも「比べる」ことを意識して学習を進めてきた。最初の見学では、自分たちの予想と比べ合った。ここでは、予想と比べることで、視点を持って見学をしたり話し合いをしたりすることができた。本時では、お店の良さを比べ合った。児童は「比べる」ことを意識していたが、「消費者」「販売者」と、視点がばらばらになってしまったため、比べ合うことが難しくなってしまった。ひびき合うための「比べる」ということは手立てとして有効だが、そのためには、しっかりとした視点を与えることが必要であることがわかった。

単元を通して、「消費者としての意識を高めていく」という目標は、概ね達成できたと考えられる。また、子ども一人ひとりの考えやつぶやきを大切にしながら、年間を通して学習を進めていくことで、「知りたい」「調べたい」という切実な思いを持つこともできた。しかし、「ひびき合い」については課題が残った。まずは、視点である。今回のような「比べる」話し合いでひびき合うためには、子どもの中にどんな視点で話し合うのかが落ちていないと、ただ伝え合うだけの話し合いになってしまうことがわかった。

次に、板書である。児童が比べ合うための手立てとして、板書も大切になってくる。どのように板書をするか児童が友だちの意見を把握しやすくなるのかを考えたり、教師が児童に何を比べ考えてほしいかということ意識しながら意見を板書でつなげていったりする必要があることがわかった。